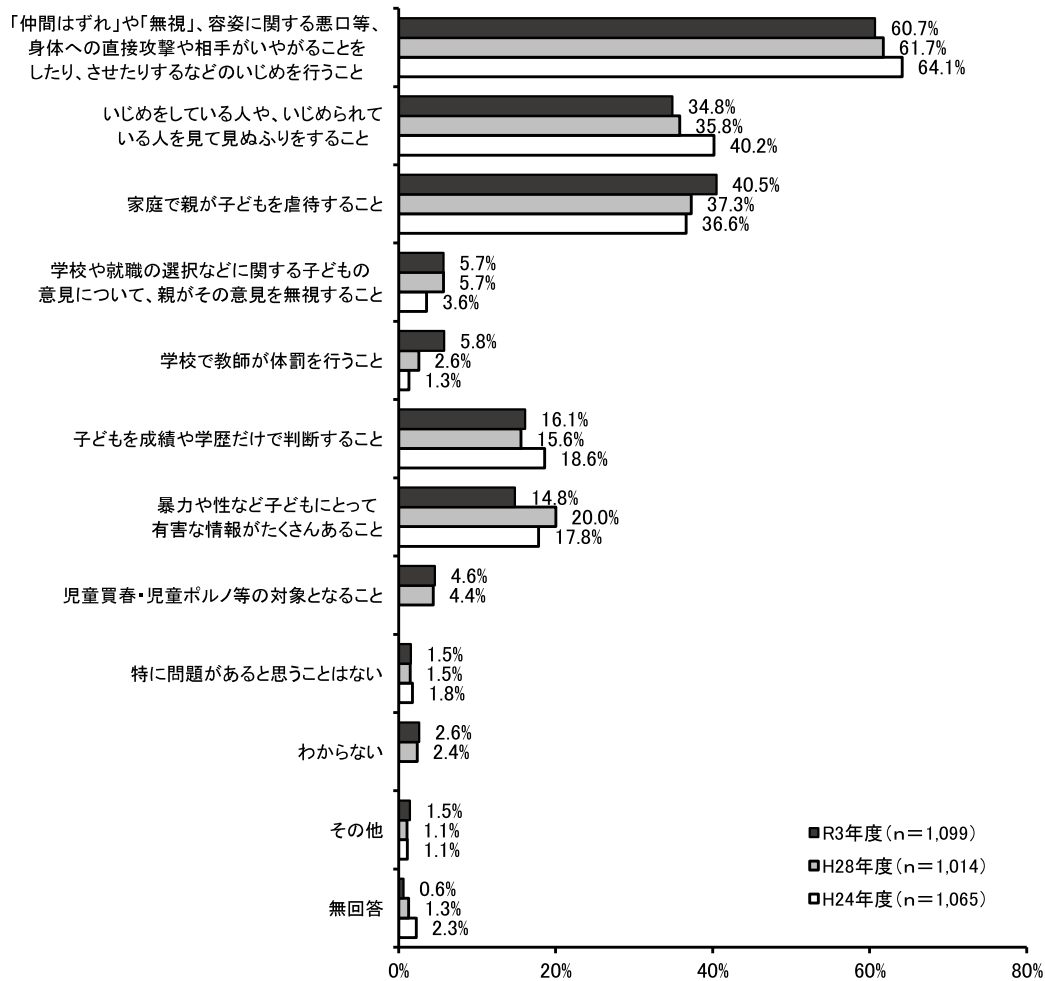


3-3 子どもの人権について

(1) 子どもの人権問題で、特に問題があると思うこと

問8 子どもの人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。



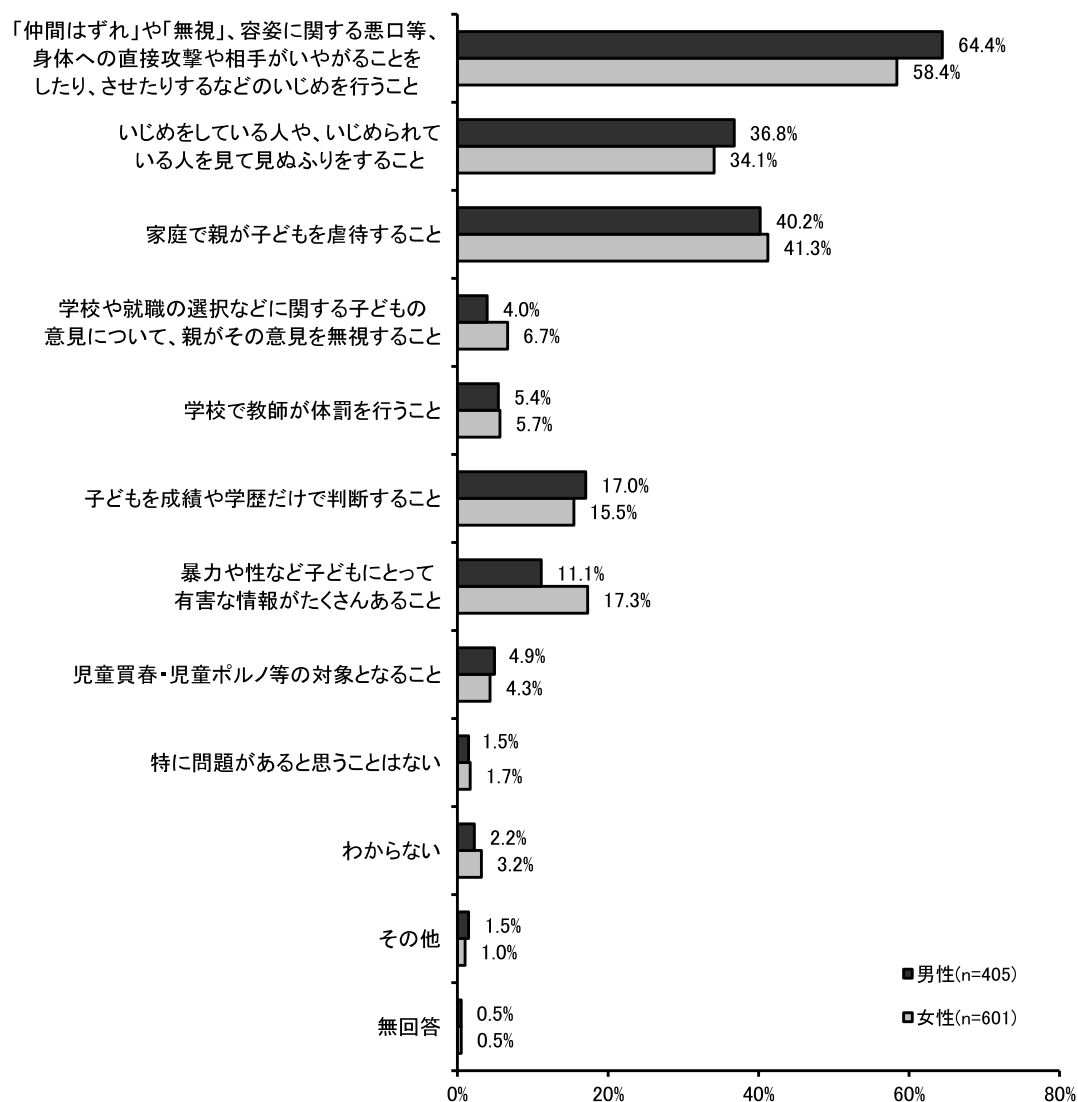
■ 「「仲間はずれ」や「無視」、容姿に関する悪口等、身体への直接攻撃や相手がいやがることをしたり、させたりするなどのいじめを行うこと」が60.7%で最も高く、次いで「家庭で親が子どもを虐待すること」が40.5%、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること」が34.8%の順となっている。

【前回・前々回比較】

■ 「家庭で親が子どもを虐待すること」は前回の37.3%より3.2ポイント増加し、「暴力や性など子どもにとって有害な情報がたくさんあること」は前回の20.0%より5.2ポイント減少している。

■ 「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること」は前回の35.8%より1.0ポイント、前々回の40.2%より5.4ポイント減少している。

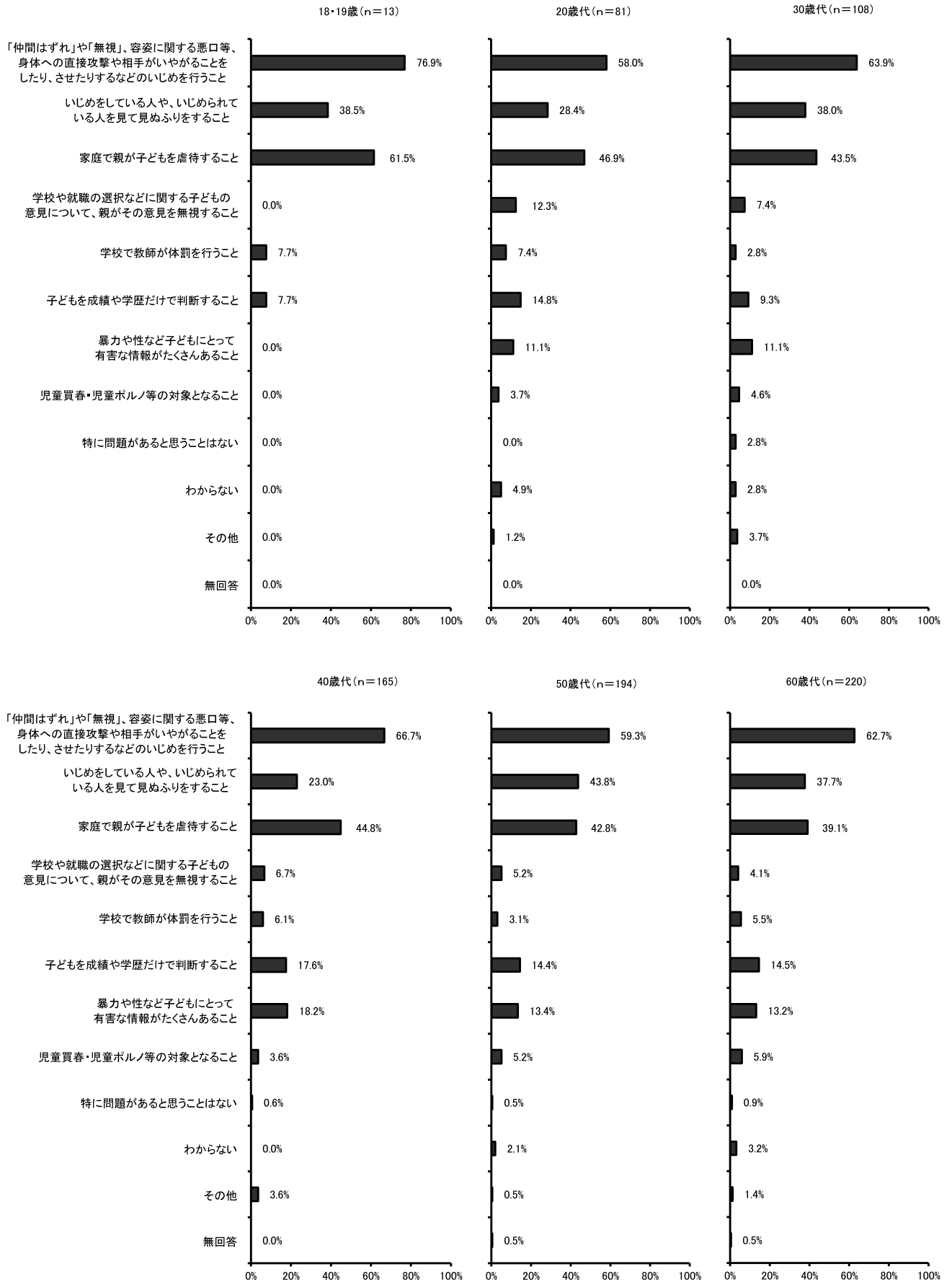
男女別

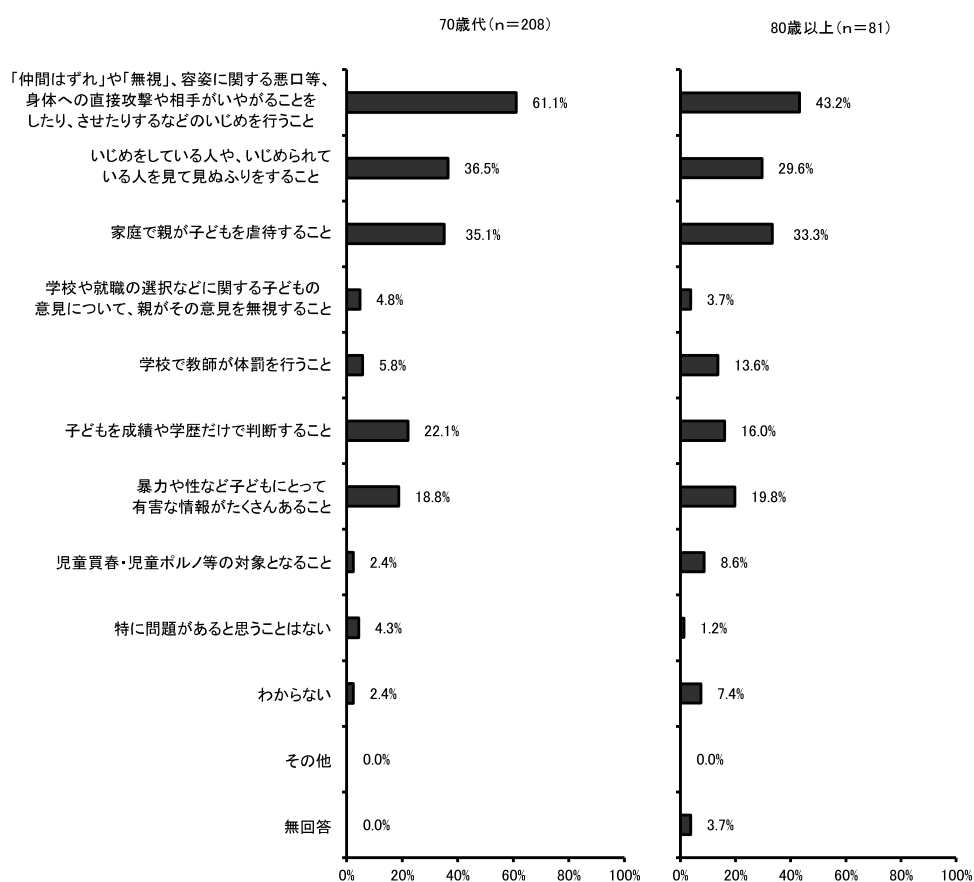


■男女共に「「仲間はずれ」や「無視」、容姿に関する悪口等、身体への直接攻撃や相手がいやがることをしたり、させたりするなどのいじめを行うこと」が最も高く、5割を超えている。

■「「仲間はずれ」や「無視」、容姿に関する悪口等、身体への直接攻撃や相手がいやがることをしたり、させたりするなどのいじめを行うこと」は、男性が64.4%で女性より6.0ポイント高く、「暴力や性など子どもにとって有害な情報がたくさんあること」は、女性が17.3%で男性より6.2ポイント高くなっている。

年代別

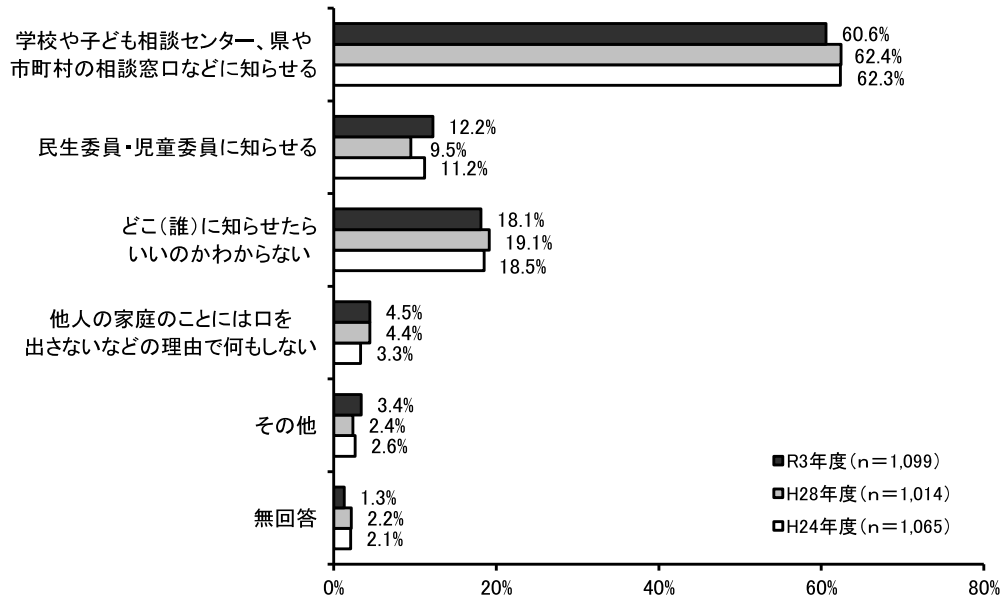




- いずれの年代においても「「仲間はずれ」や「無視」、容姿に関する悪口等、身体への直接攻撃や相手がいやがることをしたり、させたりするなどのいじめを行うこと」が最も高くなっている。
- 「家庭で親が子どもを虐待すること」は、若い年代ほど高くなる傾向がみられる。

(2) 児童虐待を発見したときの対応

問9 あなたが児童虐待を発見したらどうされますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。



■「学校や子ども相談センター、県や市町村の相談窓口などに知らせる」が60.6%で最も高く、次いで「どこ（誰）に知らせたらいいのかわからない」が18.1%、「民生委員・児童委員に知らせる」が12.2%の順となっている。

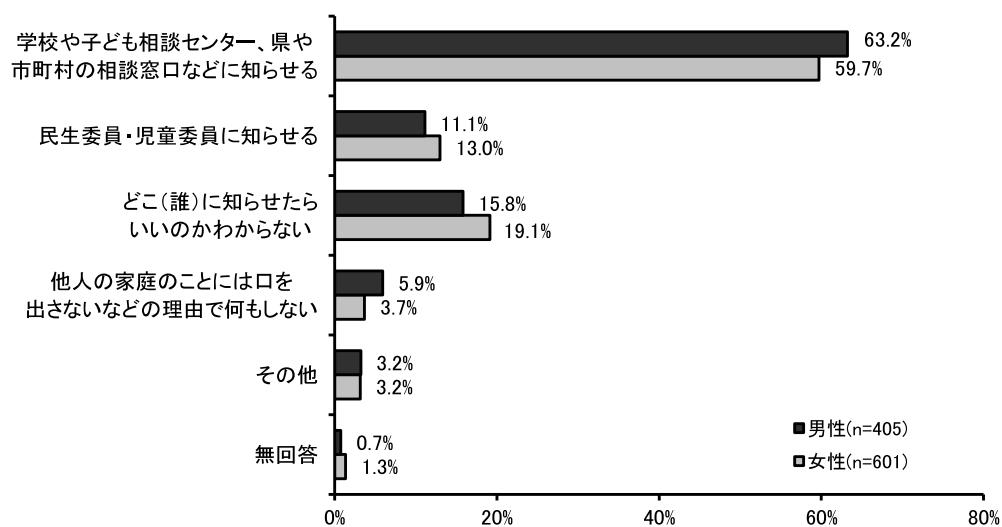
■「学校や子ども相談センター、県や市町村の相談窓口などに知らせる」と「民生委員・児童委員に知らせる」を合わせた“どこ（誰）かに知らせる”は、72.8%となっている。

【前回・前々回比較】

■「民生委員・児童委員に知らせる」は前回の9.5%より2.7ポイント増加し、「学校や子ども相談センター、県や市町村の相談窓口などに知らせる」は前回の62.4%より1.8ポイント減少している。

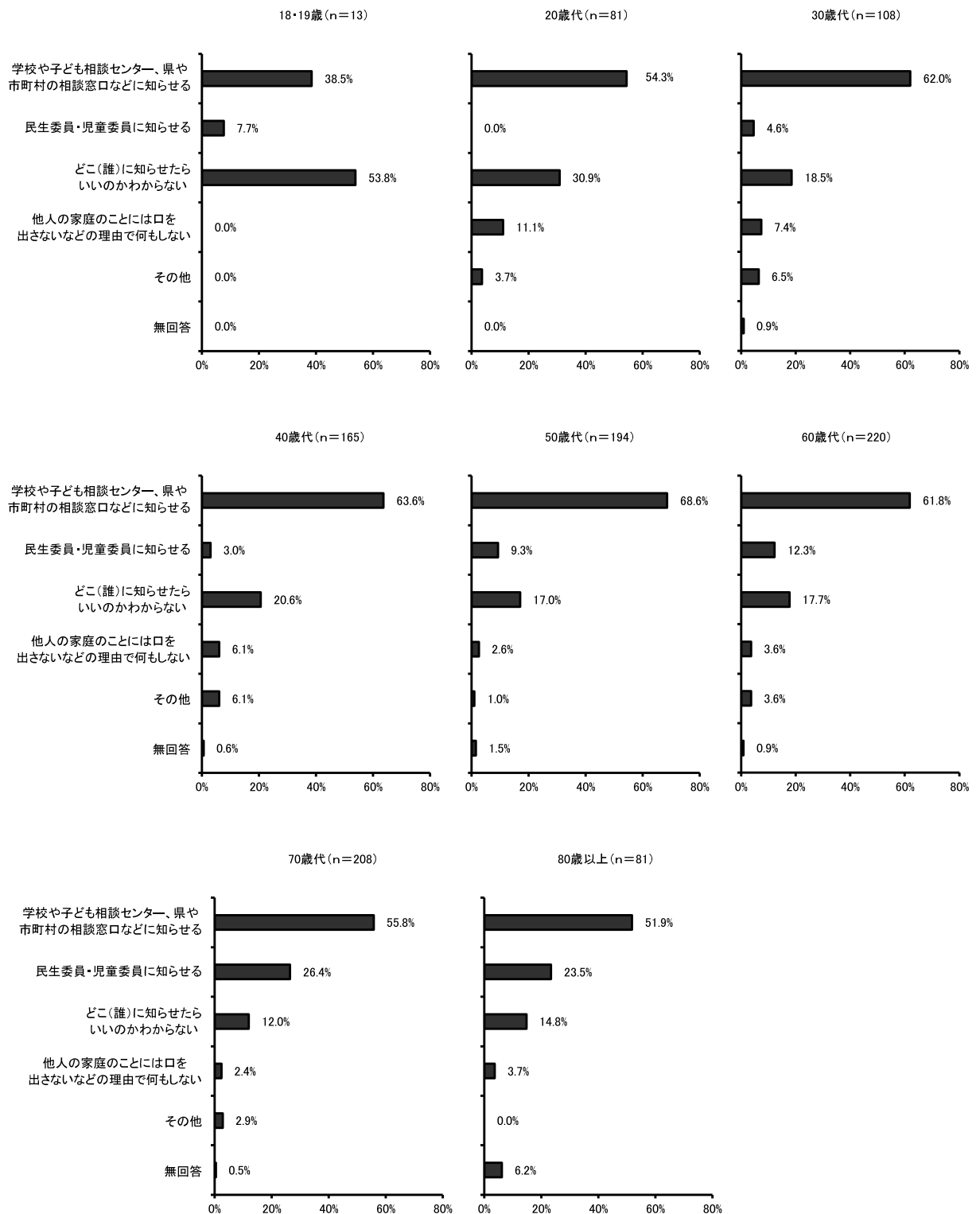
■“どこ（誰）かに知らせる”は、前回の71.9%より0.9ポイント増加している。

男女別



- 男女共に「学校や子ども相談センター、県や市町村の相談窓口などに知らせる」が最も高く、5割を超えている。
- “どこ(誰)かに知らせる”は、男性が74.3%、女性が72.7%と、差がほとんどみられない。
- 「どこ(誰)に知らせたらいいのかわからない」は、女性が19.1%で男性より3.3ポイント高く、「他人の家庭のことには口を出さないなどの理由で何もしない」は、男性が5.9%で女性より2.2ポイント高くなっている。

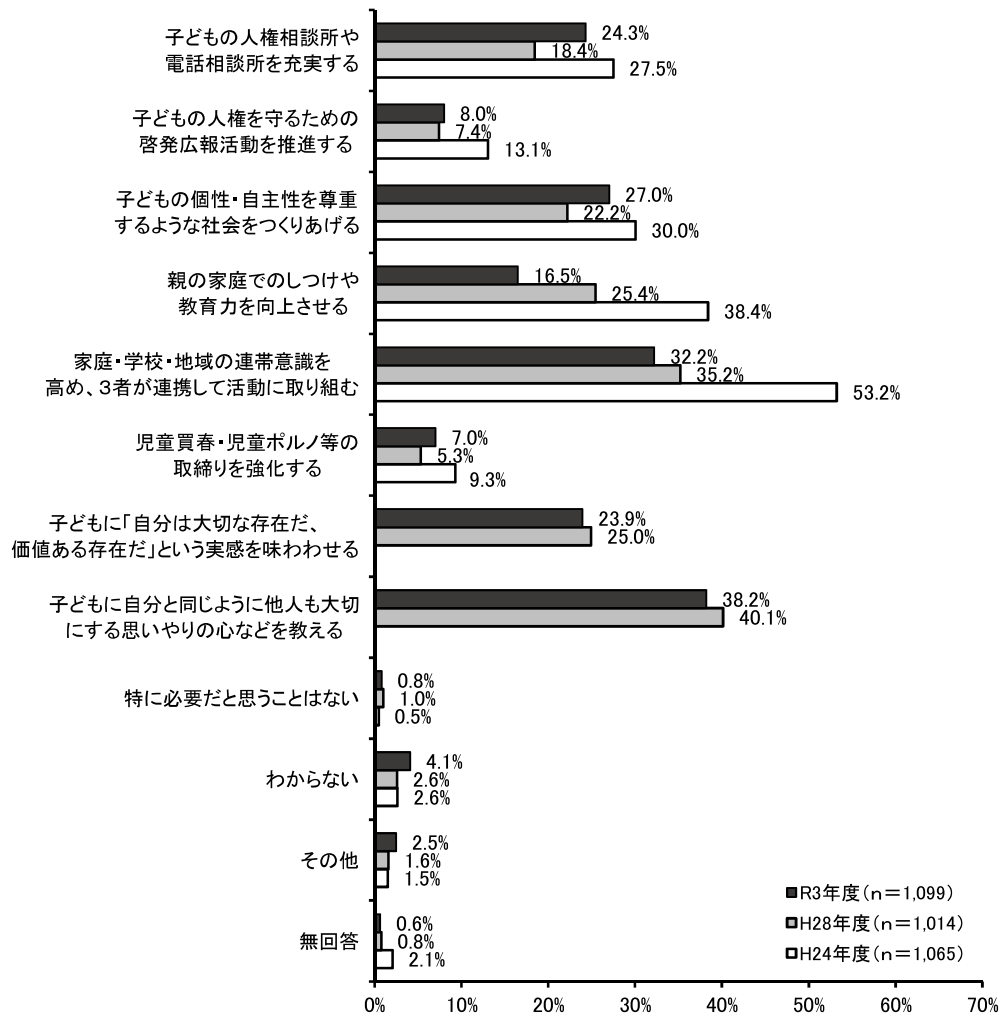
年代別



- いずれの年代においても「学校や子ども相談センター、県や市町村の相談窓口などに知らせる」が高くなっており、30～60歳代では6割を超えている。
- 「どこ（誰）に知らせたらいいのかわからない」は、60歳代以下で高く、「民生委員・児童委員に知らせる」は、70歳代以上で高くなっている。
- “どこ（誰）かに知らせる”は、50歳代以上で高く、7割を超えている。

(3) 子どもの人権を尊重するために必要なこと

問10 子どもの人権を尊重するためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

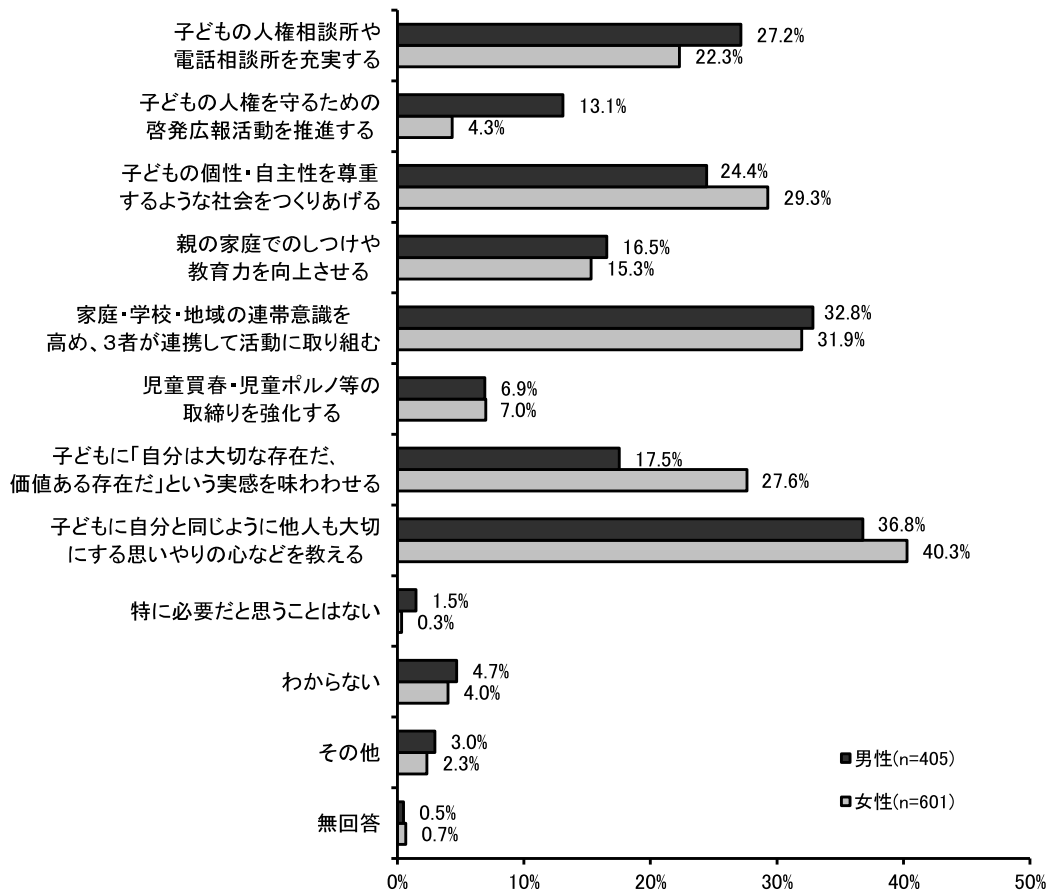


■ 「子どもに自分と同じように他人も大切にする思いやりの心などを教える」が 38.2%と最も高く、次いで「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、3者が連携して活動に取り組む」が 32.2%、「子どもの個性・自主性を尊重するような社会をつくりあげる」が 27.0%の順となっている。

【前回・前々回比較】

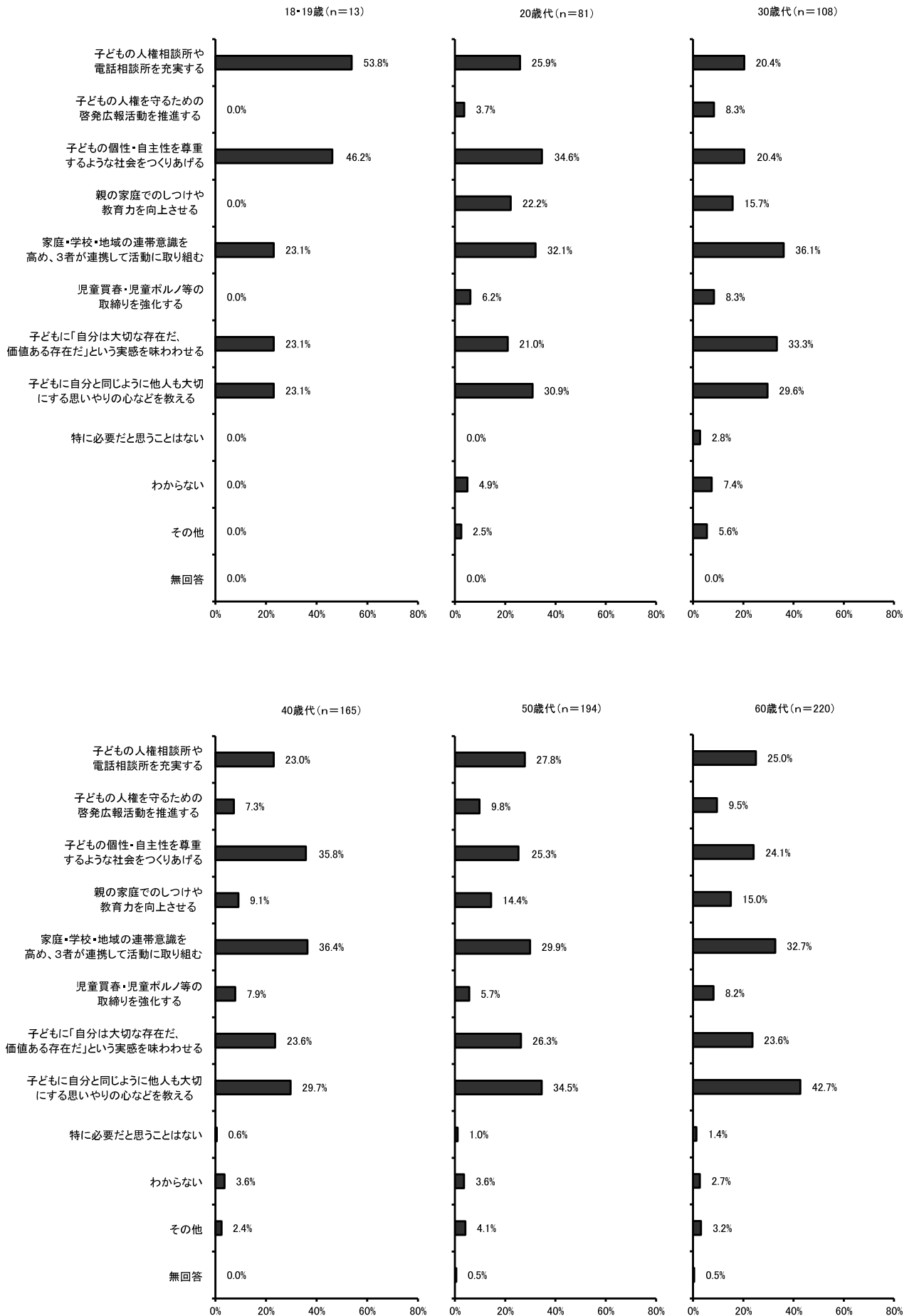
- 「子どもの人権相談所や電話相談所を充実する」は、前回の 18.4%より 5.9 ポイント、「子どもの個性・自主性を尊重するような社会をつくりあげる」は、前回の 22.2%より 4.8 ポイント増加している。
- 「親の家庭でのしつけや教育力を向上させる」は、前回の 25.4%より 8.9 ポイント、「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、3者が連携して活動に取り組む」は、前回の 35.2%より 3.0 ポイント減少している。

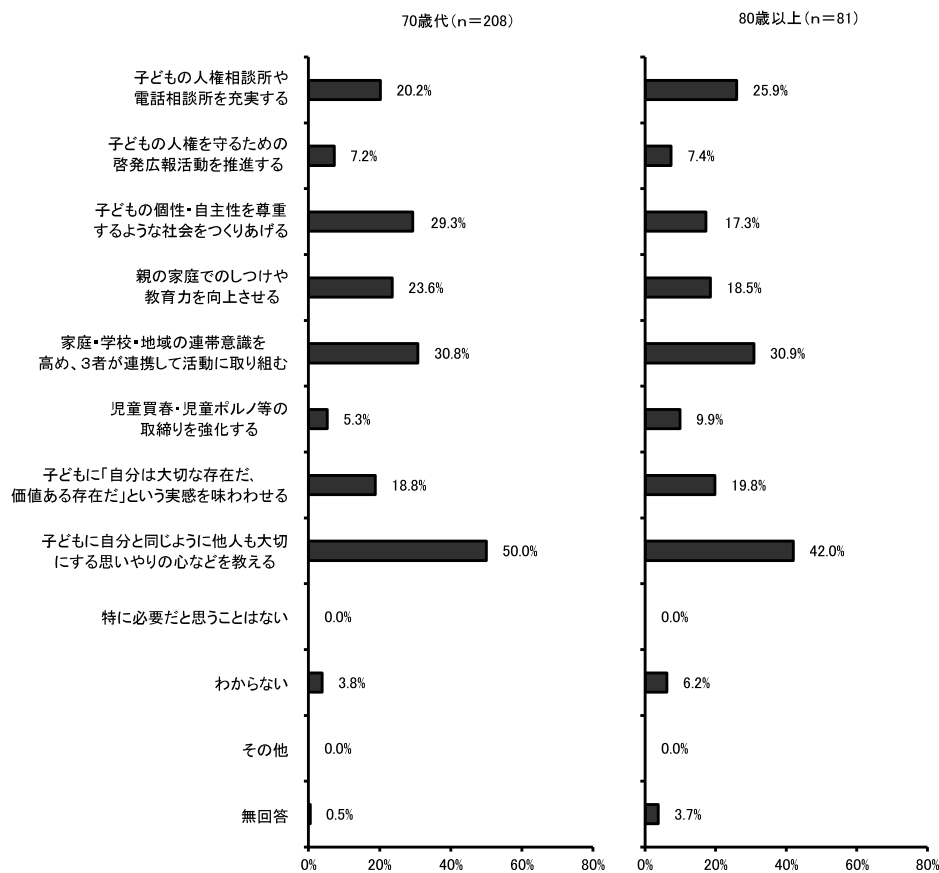
男女別



- 男女共に「子どもに自分と同じように他人も大切にする思いやりの心などを教える」が最も高くなっている。
- 「子どもの人権相談所や電話相談所を充実する」は、男性が27.2%で女性より4.9ポイント、「子どもに「自分は大切な存在だ、価値ある存在だ」という実感を味わわせる」は、女性が27.6%で男性より10.1ポイント高くなっている。

年代別





- 20歳代は「子どもの個性・自主性を尊重するような社会をつくりあげる」、30～40歳代は「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、3者が連携して活動に取り組む」、50歳代以上は「子どもに自分と同じように他人も大切にする思いやりの心などを教える」が最も高くなっている。
- 50歳代以上では「子どもに自分と同じように他人も大切にする思いやりの心などを教える」が、40歳代以下より高くなっている。